

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦986番地38		
自己評価作成日	令和1年12月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、介護教室を開催し地域の方々に多数参加いただき、好評をえています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは「入居者それぞれが自分らしくあるがままに」をモットーとして、入居者がホームでの生活を安心して送れるよう日々支援に努めている。年1回地域の公民館にて外部講師を招いた介護教室には毎回多くの地域住民の参加があるほか、ホーム敬老会には地域ボランティアであるコーラスグループやダンスチームが訪れたり、中学生の職場体験を受け入れたりするなど地域に根差した取り組みを行っている。2か月毎に発行する「うたし新聞」にはホーム行事や入居者の様子を写真をふんだんに掲載して知らせ、家族の安心感にも繋がっている。また、入居者が入院等で退所した後もその家族と引き続き交流するなど、繋がりを大切にしていることが窺える。地元で獲れた魚や無農薬野菜を中心に職員が調理した物が食卓に並べられており、家庭的で健康に配慮した食事を提供している。入居者・家族・地域住民・職員が一体となった家族的な雰囲気があり、職員同士が相互に協力し合っ入居者を見守り、支援に取り組んでいるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームうたし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくあるがままに」をモットーに入居者が自分らしく生活ができるよ、一人一人に応じた関りを職員は心掛けている。	ホームでは入社時や毎月の会議等を通じて職員への理念の周知を図っている。職員は「入居者それぞれが自分らしくあるがままに」をモットーに、入居者がホームでの生活を安心して送れるよう日々支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事への参加や、慰問、中学生職場体験受け入れなど地域の方々とのつながりを深め交流を図っている。	ホームでは年1回地域の公民館にて外部講師を招いて介護教室を開催しており、毎回多くの地域住民の参加がある。また、ホーム敬老会には地域ボランティアであるコーラスグループやダンスチームが訪れるほか、中学生の職場体験を受け入れるなど地域に根差した取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年1度、介護教室を開催し、地域の皆さんを参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が参加した研修内容の報告や手作り新聞による入居者の動向報告を行っている。また、家族にも参加していただき運営委員や家族の方の意見やアドバイスも取り入れている。	運営推進会議は地区老人会会長・地区協議会会長・神社副総代・民生委員及び児童委員・市長寿社会課職員を構成メンバーとし、開催している。会議ではホーム活動報告のほか職員の研修参加状況やヒヤリハット・事故報告等について報告し、活発な意見交換を行っている。会議で出された意見等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方に運営会議に参加していただき、事業所の実情や取り組みを伝え議事録を毎回提出している。	ホームでは運営推進会議を通じて市長寿社会課職員と意見交換を行い、必要な情報を得ている。また、必要に応じて生活保護や成年後見人制度に関する事項について関係する行政担当部署と連絡を取りながら協力体制を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には積極的に参加し、報告を行っている。また3か月に1回身体拘束廃止委員会を実施して社内外研修に取り組んでいる。	訪問調査時現在、身体拘束が必要な入居者はおらず、日中玄関の施錠も行っていない。職員は社内及び外部の身体拘束に関する研修に参加し、知識の習得に努めている。ホームでは地区協議会会長・心療内科医院長・司法書士・家族代表2名・ホーム管理者・計画作成担当者・職員代表を構成メンバーとした身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。	ホームでは3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催しているが、直近の開催状況の記録が確認できなかったため、記事録等の記録として残すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修に参加し情報共有を行い社内研修や日々の振り返りなどで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し理解を深め個々の必要性に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族への説明時は、理解しやすいような言葉使いを心掛け、不安や疑問が解決でき十分に理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活の中で観察や声掛けを行い思いを引き出している。家族へのカンファレンスや運営会議、家族会に参加していただき、意見や要望を聞く機会を設けている。	2か月毎に発行する『うたし新聞』にて行事や入居者の日々の様子を収めた写真を掲載し知らせるとともに、運営推進会議や家族会を通じて意見や要望を聴取し、運営に反映するよう努めている。また、入居者が入院等で退所した後もその家族と引き続き交流するなど、繋がりを大切にしていることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、意見や要望を聞きコミュニケーションを図っている。また、日頃より相談しやすい環境作りを心がけている。	ホームでは毎月の職員会議を通じて職員の意見や要望を聴取し、必要に応じて入居者への支援や物品の購入など職員からの意見を運営に反映している。また、職員から直接代表者兼管理者にも要望等が伝えられる関係性ができている。有給休暇についても職員同士が相互に協力しながら職員の希望通りに取得できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当などを設けまたそれぞれ役割担当を持ちやりがいを感じられる様努めている。希望休が取りやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が自分に必要とする研修に意識を持って参加できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入し、他の施設との交流会、情報交換ができるよう取り組みサービスの質を向上させていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者には可能な限り本人に在所していただき、ホーム内の見学をしていただいている。またこちらから面接に出向き安心して頂けるようゆっくりと傾聴し、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに、本人、家族と話し合いをする場を持ち、相談しやすい環境づくりや本人が安心して生活できる環境を提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談内容により状態に応じたサービス利用の説明を行い適切支援ができるよう選択肢を提供し対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを可能な限り取り組めるよう一緒に体操をしたり職員と食事準備やかたず家掃除などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有し、本人、家族の絆を大切にし、それぞれの相談しやすい環境作りを心がけ支援出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、馴染みの方の面会、電話、外出支援、帰宅支援に努め本人の希望に添えるようまたこれまでの関係が途切れない様支援している	ホームでは入居時に入居者の生活歴を把握するとともに、入居者との会話や家族や知人から情報を得て関係継続の支援を行っている。趣味活動の折り紙や年賀状作成、正月の帰省など入居者一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との交流が図れるよう、体操や学習日光浴などの活動時間を設け参加を促している。また家事手伝いでもそれぞれ役割分担し協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族の要望があれば、必要に応じた支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合い希望や意向の把握に努め本人が望む暮らしが出来る様よう支援している。	職員は難聴の方や意思表示が困難な方には筆談を行ったり、その方の表情や生活状況から想いを推察したりするなどし、判断するよう努めている。また、入居者の状況に応じて家族からの協力も得ながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を参考にし、これまでの生活歴や環境本人が望む暮らしが反映されていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日常生活の中で心身状態にあった過ごし方や有する力を発揮できる様な環境を心がけ一人一人の状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に担当スタッフを設け、ケアのあり方、今後の課題などを事前に話しあっている。その後家族と職員でケアカンファレンスを開き意見、アイデアを反映した、介護計画の作成に努めている。	ホームでは入居時や医療機関からの退院後には概ね2か月間の短期間での介護計画を立案し、状況に応じて支援内容を見直している。入居者の残存機能を活かしていくためにお手玉を使ったゲームを取り入れるなど、職員のアイデアを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護日誌への記録を残し、特変や気づきがあった場合付箋を用いたりメモ用記録に残し情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態にあったサービスが提供できるようスタッフ間で話し合い、本人や家族の意見を取り入れながら柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や老人会にはできる限り参加し、交流を図りながら良い関係を築き、本人の心身の力を発揮しながら安全で楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、納得されるかかりつけ医を定期的に通院介助している。また、通院困難な方には往診をお願いしている。受診時には相談報告を行い、連携に努めている。	毎月の受診が困難な方についてホームでは訪問診療にて対応しており、かかりつけ医への受診の際には職員が同行支援を行っている。受診結果は通院報告書に記録し、電話や手紙等で家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で異常を早期発見できるような心がけ、看護師には情報提供、相談報告を行い適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできる限り病院に出向き病院関係者と情報交換や相談を行い、本人が安心して治療に専念できるよう医療機関とのよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診、往診の際、本人の状態や今後の治療方針などを主治医と話し合い、家族にも必要に応じて報告、相談を行っている。ホーム内のできる範囲を見極め、医療機関や他事業所と連携に努めている。	ホームでは現在、医療行為が必要となった時点で医療機関へ引き継ぐ方向にて対応している。尚、今年度は看取りに関する研修や救命救急講習に職員が参加するなど、今後ホームで看取りができるよう態勢を整え取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変や事故発生時に備えの研修への参加したり定期的に訓練(AED)を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を定期的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署から来所していただき、火災訓練や点検を行っている。また災害訓練も行っている。職員は日頃から災害の意識を高め防火管理や備品の管理も行っている。地域の方にも協力依頼し緊急時の同意も頂いている。	ホームでは年2回日中・夜間想定での避難訓練を実施しており、消防署より指導や助言を得ているほか、10月には津波を想定した訓練を実施している。職員は重度化した方を想定し、職員を入居者役として毛布等で運ぶ訓練を行っている。また、SOSネットワーク(緊急時の連携体制)等の協力体制が構築されており、地域ぐるみでの協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、それぞれの状態に合った言葉かけで対応できるよう心がけている。	職員は入居者の呼称について「さん付け」を基本としつつ、愛着のある呼び名を希望する方には本人や家族にも説明するとともに、入居者の誇りを損ねないよう留意している。代表者は今後接遇マナー研修へ職員を参加させる意向である。2か月毎に発行している『うたし新聞』への写真掲載については、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い希望が言えるような環境、雰囲気づくりを心がけ、自己決定や選択できるよう努めている。また本人の意思を確認して次の行動が支援出来る様よう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の、その時の心身状態に合わせ思いや希望を尊重し、自分のペースで穏やかに一日を過ごすことができるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、又は、本人の希望時に行きつけの美容室へ通ったり、本人に合った身だしなみができるよう買い物支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、負担のない出来る範囲でお手伝いができるよう支援している。利用者のは一緒に、献立も考えてもらえるような声掛けも行っている。	地元で獲れた魚や無農薬野菜を中心に職員が調理した物が食卓に並べられており、家庭的で健康に配慮した食事を提供している。また、入居時に嗜好・アレルギー調査を行い、必要に応じて代替食にて対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に応じた摂取量や、食事形態、服薬作用を配慮し援助している、また、一日の食事摂取量や水分量を把握できるよう記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、状態に応じた見守りや一部介助を実施、口腔ケア用の物品も考慮している。歯科医療受診時、報告相談をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、状況に応じて早めの声掛けや誘導介助を行いトイレで排泄できるよう支援を行っている。	職員は乳製品や水分摂取量を調整することで自然排便ができるよう工夫している。また、排泄チェック表に記入することで本人の排泄パターンに応じた誘導ができるよう努めている。その他にも使用間違いを防ぐためのオムツの管理方法の検討や尿取りパットの大きさへの配慮など、家族にも入居者の状況を適宜伝えながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事や水分量を考慮し入居者それぞれに適した体操や活動が出来るよう声かけをしている。薬剤必要時は主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の気分や体調に合わせて入浴支援が出来る様心がけている。季節に合わせた入浴方法、入浴剤を準備し支援している。	ホームでは月曜日から土曜日の午前中、週2回を目途に入浴支援を行っている。職員は入浴を拒否する方について声掛けを工夫することでその方が安心して入浴できるよう心掛けている。また、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を準備し、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境整備や室温調節を行い、休息、安眠できるように支援している。日中活動できる時間を設け、夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書は個々のカルテに添付し、変更時は、通院記録、介護日誌に記載、職員全員が確認できるようにしている。記録、申し送りを徹底し、状況確認を確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人有する力に応じた役割を持ち、張り合い、喜びを持てるよう支援している。活動時には塗り絵や学習ドリル、パズル等促し気候に合わせて散歩や日光浴で気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やドライブに出かけ希望者には買い物支援を行っている。体調や天気、気温に合わせて散歩や日光浴もおこなっている。家族と外出される事もある。	ホーム全体でのつつじ・コスモスなどの季節の花見やドライブのほか、個別での買物及び近隣への散歩など、外出する機会を設けることで入居者の気分転換を図っている。また、家族と外出や外泊することもあり、その際には介助方法など必要なアドバイスを行い、安全に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でされている方は自分自身でおこずかい程度の金額を所持されており外出の時に希望があれば買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはその都度対応行っている。職員が家族と電話をしている際本人と会話できる状況を支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり入居者の作品を飾り生活感や季節感を採り入れ居心地のよい空間づくりに心がけている。近所からの花の差し入れもある。	ホームでは共用空間に次亜塩素酸水生成器を設置し感染対策や消臭等を行うとともに、午前と午後に職員が清掃し清潔を保持している。季節毎の飾り付けのほか入居者が作成した習字を掲示するなど、居心地の良い共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人思いのまま穏やかに過ごせるよう椅子、ソファの種類や配置を考慮している。、座席の工夫もおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人、家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた物や好みのものを用意して頂いたり、本人が居心地の良く過ごせるように工夫している。	居室への持ち込みについて特に制限は設けておらず、仏壇や使い慣れた家具・家族写真等が自由に持ち込まれている。居室は担当職員がチェックを行い、衣替えや家具類の配置など必要に応じて家族に相談しながら入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居手すりを配置や座りやすい場所へソファの設置、安全な場所へ家電製品の設置など入居者が安全で出来るだけ自立した生活ができるよう配慮している。		